

加世田の水車カラクリ

【所在地】南さつま市加世田武田 17932 竹田神社（竹田神社からくり保存会）

【種別】県指定有形民俗文化財

【指定年月日】昭和 61 年 3 月 24 日



竹田神社前の用水溝にかけた人形舞台

加世田の水車カラクリは、例年 7 月 23 日の竹田神社の六月灯（夏祭り）の日に土踊とともに公開されている。

このカラクリは、神社前の益山用水溝の上に舞台を組み、水車を利用して、ほぼ等身大の人形を回転させる仕組みである。舞台上で人形を回転させる力は、水力を水車と 2 個の歯車により水平回転に変えたものである。

また、舞台は二間四方の広さで、カラクリ人形によって芝居の一場面が毎年題材を変えて演じられている。この題材は、概して「馬上の 源 義経」、「加藤清正」、「那須与一」のような武者人形が多い。

ここの益山用水溝ができたのは明和 5（1768）年であるが、カラクリ人形がいつから始められたかは不明である。また、水車カラクリは、鹿児島県内に加世田と知覧の 2 か所だけが伝えられている国内でも珍しいものであるが、加世田のカラクリは知覧のカラクリの原型とも考えられている。

昭和 59（1984）年 12 月 20 日、知覧の水車カラクリとともに記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（名称：「薩摩の水からくり」）として国により選択された。